

## 魚たちのにぎわいを協働で復活させるプロジェクトについて

平成23年12月

滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課

### 1 基本的な考え方

様々な人たちの保全の努力にもかかわらず、琵琶湖では水草の異常繁茂や外来魚の繁殖、漁網へのプランクトンの付着など、生態系の歪みを示す現象が続いており、在来魚介類の多くが減少している。

生態系の歪みを是正し、かつての魚たちのにぎわいを復活させるためには、関係者間で①琵琶湖で今起こっている現象について正確に把握し、②課題を共有するとともに、③魚が減っている原因をつきとめ、④それぞれの機関が主体的に有効な対策を取ること、が求められる。

このことから、行政、事業者の枠を超えたプロジェクトチームを結成し、琵琶湖の現状についての共通理解を図った上で、課題の解決に向け、一丸となって取り組むこととする。

なお、本プロジェクトはマザーレイク 21 計画の重点プロジェクトに位置付けて実施する。

### 2 目的

「琵琶湖の生態系のバランスを是正し、本来の在来魚介類のにぎわいを復活させる」

### 3 プロジェクトメンバー

以下のメンバーで構成し、課題に応じて必要なメンバーに参加を求めることとする。また、4 (3) 以後の具体的な課題の原因究明、対策の実施においては、必要に応じ、関係するメンバーによるグループで対応することとする。

(県関係)

琵琶湖環境部 琵琶湖政策課 下水道課  
農政水産部 水産課 農村振興課にぎわう農村推進室 農業経営課  
土木交通部 流域政策局広域河川政策室  
試験研究機関 琵琶湖環境科学研究センター 水産試験場

(団体等)

滋賀県漁業協同組合連合会 (推薦委員 3 名)  
(独)水資源機構琵琶湖開発総合管理所 (環境課)

(協力機関)

国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所

### 4 原因解明の進め方

(1) 琵琶湖でこれまでに起こった現象と今起こっている現象の正確な把握

琵琶湖に係る情報、文献等を収集・解析し、経時的な変化と現状について、①時系列に

沿った年表②代表的な年次におけるマップを作成するプロセス（ワークショップ）を通じて、可能な限り正確に把握し、客観的なデータとして取りまとめる。必要に応じて、現地調査を実施する。

(2) 課題の共有と整理

(1) の情報をもとに、過去からの琵琶湖の環境の状態の変化の過程と現在との比較を行い、プロジェクトで取り組むべき課題を明らかにする。

(3) 原因の究明

(2) で整理した課題について解析し、原因の究明を行う。

5 役割分担、対応および検証

明らかとなった原因への対応について、役割の分担と方針の検討を行うとともに、各機関は、自らがこの方針をもとに具体的な対策について検討し、実施する。

対策の実施後、環境の変化とその効果等について検証を行う。

(参考：マザーレイク 21 計画の考え方に基づく取り組みのイメージ)

